令和６年度　立川市立第六小学校　学力調査等の分析について

１　児童の現状の実態と課題の把握をするための調査
（１）「令和６年全国学力・学習状況調査」の分析（小学校６年生）
（２）「東京ベーシック・ドリル（算数）」の分析（小学校２～６年生）
（３）「令和５年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」の分析（全学年）

２　各調査の分析
（１）令和６年度全国学力・学習状況調査による分析

①各教科の調査結果と平均正答率の全国・東京都との比較

国語		区分	平均正答率（%） 本　校	都平均	全国平均
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	57.7	67.9	64.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	88.1	88.8	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	59.5	75.3	74.6
	思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	61.1	63.9	59.8
		B　書くこと	67.9	69.9	68.4
		C　読むこと	61.9	71.9	70.7
全体			63.0	70.0	67.7

算数		区分	平均正答率(%) 本　校	都平均	全国平均
学習指導要領の領域	思考力、判断力、表現力等 知識・技能	A　数と計算	67.5	70.6	66.0
		B　図形	70.2	70.8	66.3
		C　変化と関係	55.6	59.3	51.7
		D　データの活用	58.9	65.2	61.8
全体			65.0	68.0	63.4

②学力調査の結果分析

本校の国語の平均正答率は、全国に比べて４．７％低く、東京都に比べ７．０％低い結果であった。

「知識及び技能」の「（１）言葉の特徴や使い方に関する事項」では、「文の中における主語と述語の関係を捉えることができるかどうかを見る」設問において、全国と比べ１１．８％、東京都と比べ８．２％高かった。

「Ａ　話すこと・聞くこと」に関しては、全国に比べると１．３％高く、東京都に比べると２．８％低かった。特に、「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」設問では、全国平均よりも５．４％、東京都よりも９．５％下回り、課題が見られた。グループ学習などを通して、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合ったり、考えを広げ、まとめたりする活動を多く取り入れた指導を行う。

「Ｂ　書くこと」では、全国平均よりも０．５％低く、東京都よりも２．０％低かった。「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる」設問では、全国平均をやや上回ったものの（３．０％）、東京都よりも０．１％低く、特に、「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」設問においては、全国と比べ４．２％、東京都と比べ４．０％下回っており、目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力に課題が見られた。これら課題を解決するために、言語活動において、目的や意図に応じた書き方を身に付けるために、事実と感想、意見とを区別して書く活動を取り入れるなど、自分の考えを伝えるための書き表し方を身に付けさせる必要がある。

「Ｃ　読むこと」においては、全国よりも８．８％、東京都に比べ１０．０％低かった。特に「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる」設問では、全国に比べて１７．８％低く、東京都よりも１６．２％低かった。また、空欄に入る内容として適切なものを選択する設問では、無回答率が３３．３％であり、課題が見られた。文章の内容を理解できていても、条件など、目的に沿って情報を読み取る力が不足しているため、多様な文章に触れさせる必要がある。朝の時間帯など、日常的に読書に親しむ時間を多くもたせたり、言語活動において、詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動を多く取り入れた指導を行う。

また、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかを見る」設問では、全国と比べ１２．４％、東京都と比べ１７．９％低かった。漢字を文の中で正しく使うこと、文の内容に応じて接続語を正しく使うことなどに課題がある。授業で基礎的な知識を確認するとともに、文や文章の中でも書く活動を取り入れたり、家庭学習やドリルなどで習熟を図ったりする必要がある。

算数の平均正答率は６５％で、全国平均よりも１．６％上回ったが、東京都よりも３．０％低い結果であった。「Ｂ　図形」領域の「直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる」という設問は、全国に比べ９．７％、東京都に比べ５．１％高い結果であった。一方で、「Ｃ　変化と関係」領域、「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる」設問に関しては、全国に比べると１．０％、東京都に比べると９．３％下回っている。また、「Ｄ　データの活用」領域、「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる」設問に関しては、全国よりも７．０％、東京都よりも８．６％低く、課題が見られた。今後の学習場面において、自分の考えを言葉や式、図、表、グラフ等を用いて、ノートにまとめたり、ＩＣＴ機器を活用して、自分の考えを表現したり、伝え合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れるようにする。また、数量や図形についての感覚を豊かにしたり、表やグラフを用いて表現する力を高めたりするなど、計画的に指導していく。

（２）東京ベーシック・ドリル診断テスト（算数）による分析（令和６年度立川市の平均と比較）

①今年度の診断テストの結果

領域別平均正答率（%）									平均正答率	
	A　数と計算		B　図形		C 測定 変化と関係		D　データの活用			
	本　校	立川市	本　校	立川市	本　校	立川市	本　校	立川市	本　校	立川市
２年	**73.3%**	69.2%	**93.3%**	87.6%	**66.7%**	71.0%	**42.2%**	47.5%	**70.3%**	69.6%
３年	**60.9%**	62.6%	**44.2%**	49.2%	**50.0%**	36.0%	**30.8%**	46.4%	**53.1%**	54.7%
４年	**76.9%**	71.1%	**53.8%**	48.4%	**64.1%**	64.8%	**43.6%**	45.1%	**70.7%**	67.5%
５年	**64.9%**	63.2%	**49.4%**	49.4%	**58.7%**	48.6%	**64.4%**	56.5%	**61.9%**	58.8%
６年	**49.6%**	60.1%	**48.8%**	53.9%	**19.8%**	38.8%	**34.9%**	50.9%	**40.0%**	51.5%

②令和６年度の立川市内平均を下回った領域

２年実施【小１】	３年実施【小２】	４年実施【小３】	５年実施【小４】	６年実施【小５】
測定 データの活用	数と計算 図形 データの活用	変化と関係 データの活用	－	数と計算　図形 測定、変化と関係 データの活用

③課題と今後の取組。

２年生は、平均正答率は７０．３％で、市平均の６９．６％に比べ０．７％高い。特に「図形」領域では、市平均より５．７％高い。一方で、時計の学習問題では、「何時何分か」と時刻を読み取る問題の正答率が市の平均と比べて１３．７％低かった。今後は、時計の学習問題に重点をおいて指導するとともに、日常生活にも学んだ内容を生かしていく。

３年生は、「測定」領域では、立川市と比較して１４．０％高かった。特に「時間」の学習問題では、市平均に比べて２２．８％高かった。一方で、平均正答率は５３．１％で、市平均に比べ１．６低い結果であった。特に図形の名称を答える問題の正答率が１３．０％であり、市平均に比べ低い結果であった。「図形」領域の単元を丁寧に指導して、学力の定着を図る。

４年生は、平均正答率は７０．７％で、市平均の６７．５％に比べ３．２％高い。どの領域においても、市の平均と同程度かそれ以上の結果であるが、「データの活用」領域の表の読み取りや、棒グラフの作成の正答率が市平均よりも１．５％低い結果であった。今後は、データの収集とその分析に関わる数学的な活動を計画的に指導していく。

５年生は、平均正答率は６１．９％で、市平均の５８．８％に比べ３．１％高い。どの領域でも市平均を同等か上回っている。引き続き、朝学習や家庭学習などの時間を活用して、四則計算をより速く、正確にできる力をつけられるようにする。

６年生は、平均正答率は４０．０％で、市平均の５１．５に比べ１１．５％低い結果となり、どの領域でも市平均を下回り、学習の習得状況に課題が見られた。ドリル等を活用して基礎的な学習内容を身に付け、ＩＣＴ機器等を活用して、自分の考えを表現したり、伝え合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れるようにする。

２～５年生に関しては、平均正答率が市の平均と同程度か、それを上回った。今後も毎週金曜日の朝学習の時間を活用し、東京ベーシック・ドリルに取り組むとともに、発展的な問題にも取り組ませる。どの学年においても理解が不十分な領域については、指導法を改善するとともに、反復練習をして理解を促し、さらなる学力の向上を図るために個別最適な学習を展開していく。

（３）令和５年度　東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査による分析

種目	握力 （kg）	上体起こし （回）	長座体前屈 （ｃｍ）	反復横とび （回）	２０mシャトルラン（回）	５０ｍ走 （秒）	立ち幅とび （ｃｍ）	ソフトボール投げ（m）
本校平均 （全校児童）	12.7	15.6	36.8	32.8	28.3	10.3	127.5	12.8
都平均	13.2	16.0	33.0	34.5	30.8	10.2	133.8	12.4

①「長座体前屈」は、都の平均以上の結果が出ており、柔軟性を高める運動に取り組んだ結果が表れた。授業などで全身や各部位をゆっくりと曲げたり回したりして関節などの可動範囲を広げる動きを令和６年度も取り組んでいる。「ソフトボール投げ」は都の平均を上回り、ボールを用いた運動を基礎から丁寧に取り組んだ結果が表れた。「立ち幅跳び」と「反復横跳び」は、都の平均を下回っており、課題が見られた。「なわとび週間」を活用して縄跳びに取り組み、跳躍力や瞬発力を付けられるよう今後も継続的に指導していく。また、「２０ｍシャトルラン」も、都の平均を下回っており、課題が見られた。令和６年度の取組においては、縄跳び、持久走など、長時間粘り強く続けていく運動を取り入れたり、体育の準備運動に鬼ごっこ等、走る運動を取り入れたり、持久力の向上につながる運動を持続的に行っていくようにする。

②都平均と本校を比較し、各学年の課題と体力向上に向けた取組

各学年	各学年の課題と体力向上に向けた取組
１年	・上体起こしが低い傾向にあるため、マットを使った運動遊びや、腹筋を使うような跳躍動作のある運動を取り入れていく。
２年	・反復横跳びが低い傾向にあるため、瞬発力を身に付けられるような跳の運動遊びや鬼遊びを取り入れていく。
３年	・男子は立ち幅跳びが低い傾向にあるため、体全体を使ったフォームで跳ぶことを意識させ、走り幅跳びや走り高跳びに取り組ませる。女子は反復横跳びが低い傾向にあるため、瞬発力を必要とするゴール型ゲームに取り組ませる。。
４年	・立ち幅跳びが低い傾向にあるため、体全体を使ったフォームで跳ぶことを意識させ、走り幅跳びや走り高跳びに取り組ませる。
５年	・立ち幅跳びが低い傾向にあるため、体全体を使ったフォームで跳ぶことを意識させ、走り幅跳びや走り高跳びに取り組ませる。
６年	・２０ｍシャトルランが低い傾向にあるため、縄跳びや持久走など長時間粘り強く続けていく運動を取り入れていく。